

# 筑波大学みどり散歩 No.1 サクラ その1

2021年2月発行 筑波大学生命環境学群・生命地球科学研究群 文:上條隆志(筑波大学生命環境系)

サクラは、日本で最もポピュラーな樹木の一つであり、春を象徴する樹木です。有名なのがソメイヨシノやヤマザクラです。また、通称、“山桜”と呼んでいるものには、分類学的な種としてのヤマザクラだけでなく、カスミザクラなども含まれます。また、栽培品種もソメイヨシノだけではありません。筑波大学内には、様々なサクラが植栽されています。ここでは、それらの一部を紹介します。写真もすべて学内で撮影されたものです。このリーフレットを通じて、筑波大学のみどりの楽しみ方を知って頂ければと思います。

## 学内のサクラの花を楽しむ

### 3月初めが見ごろのサクラ

#### カンヒザクラ (寒緋桜、*Cerasus campanulata* (Maxim.) Masam. et S.Suzuki)

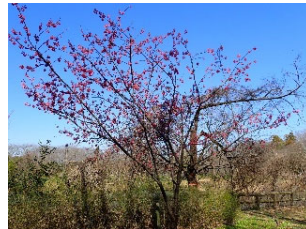
カンヒザクラは最も早咲きのサクラの一つです。名前の“カン”も“寒”が用いられています。花は赤みが強く、下向きに咲きます。サクラは花びら(花弁)が1枚1枚ばらばらになって落ちますが、カンヒザクラは、がくと花弁と一緒に落ちるのが特徴です。沖縄県に多いサクラですが、原産地は中国と考えられています。学内では、天久保池の南側に植栽されています。花の色は目立つものですが、花数は多くなく、ひっそりと咲いている印象です。花の季節(3月はじめ)ならば、天久保池沿いのカンヒザクラを学内のループ道路からでも見つけることができます。

#### カワヅザクラ (河津桜、*Cerasus* × *kanzakura* 'Kawazu-zakura' Tsunoda et Funatsu)

カワヅザクラはオオシマザクラとカンヒザクラの自然交雑により生じたとされています。伊豆半島の河津町に原木があり、名前の由来となっています。河津町のカワヅザクラは全国的にとっても有名です。ソメイヨシノと同じように、葉が出る前に開花します。学内やその周辺で3月はじめに満開のサクラがあれば、大体がこのカワヅザクラだと思います。学内では、天久保池に植栽されているカワヅザクラがお勧めです。花付きもよく、見栄えがよいものです。



カンヒザクラ (2020年3月7日、天久保池)



カンヒザクラ (2020年3月7日、天久保池)



カンヒザクラのがくと花弁(落ちていたもの) (2020年3月31日、天久保池)



カワヅザクラ (2020年3月7日、天久保池)



カワヅザクラ (2020年3月7日、天久保池)

## エドヒガンと八重紅枝垂

エドヒガン（江戸彼岸、*Cerasus itosakura* (Siebold) Masam. et S.Suzuki var. *itosakura* f. *ascendens* (Makino) H.Ohba et H.Ikeda)

エドヒガンは栽培品種のような名前ですが、日本に自生するサクラです。名前は旧暦のお彼岸のころに咲くことと、東京すなわち江戸に由来しますが、実際の分布範囲はもっと広く、東京に限られている訳ではありません。学内では植物見本園に植栽されています。がく筒（がくの筒状部分）がつぼ状になっているのが特徴的です。なお、学内のサクラ（野生種）では、マメザクラが同じくつぼ状になります。本学の井川演習林（静岡県）周辺でも川沿いなどで本種の自生個体を見ることができるといわれています。

ヤエベニシダレ（八重紅枝垂 *Cerasus spachiana* 'Plena-rosea' Miyoshi)

本学正門を入ったところに植栽されていたサクラは、エドヒガン系の栽培品種である八重紅枝垂でした。東京教育大から移植された由緒ある木でしたが、衰弱が著しく、昨年伐採されました。学内では、遺伝子実験センターの近くにも植栽されています。写真の八重紅枝垂は、この木から接ぎ木によって育成されたものです。名前の通り、八重咲で枝垂れるのが特徴的です。

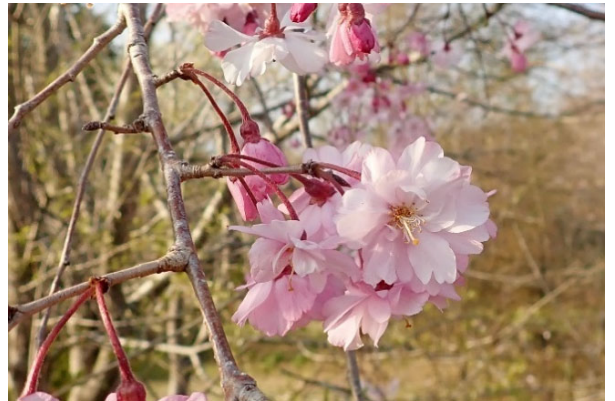
## 葉も楽しめるヤマザクラとオオシマザクラ

ヤマザクラ（山桜、*Cerasus jamasakura* (Sieb. ex Koidz.) H.Ohba)

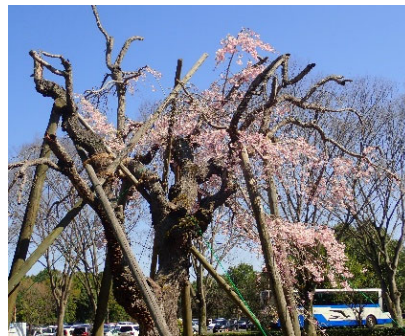
ここまで紹介したサクラやソメイヨシノは、葉が出る前に花が咲きます。一方、ヤマザクラやオオシマザクラは、葉と花が同時に出来ます。花の色で木全体が一色に染まる美しさとは、また異なった良さや味わいがあります。また、ヤマザクラは赤みの強い新葉が特徴的なのに対して、オオシマザクラは緑色の葉を出します。なお、葉の色や量は成長段階で変わり、個体によっても異なります。見分けには注意を要しますが、その変化を観察することも面白みの一つです。ヤマザクラは学内の雑木林にも自生しています。



エドヒガン（2020年3月27日、植物見本園）



ヤエベニシダレ（2020年4月3日、植物見本園の圃場（非公開区域））



東京教育大から移植されたヤエベニシダレ、2020年3月7日



ヤマザクラ（2020年3月27日、総合研究棟A近く）



ヤマザクラ（2020年3月31日、平塚通り近く）

オオシマザクラ（大島桜、*Cerasus speciosa* (Koidz.) H.Ohba)

オオシマザクラは、伊豆諸島を中心に自生するサクラです。名前の由来となっている伊豆大島をはじめとする伊豆諸島では、オオシマザクラが春の山を彩ります。花は白色が基本ですが、少し赤みを帯びるものもあります。ヤマザクラと同じく、花と同時に葉を展開しますが、葉の色は緑色とヤマザクラと異なります。学内でも各所で見られますが、いずれも植栽起源のもので、桜餅の桜葉はオオシマザクラとなります。また、野生種では最も花が大きい種となります。学内の虹の広場をはじめとする各所で植栽されています。



オオシマザクラ（2020年3月27日、虹の広場）

サクラの代表ソメイヨシノ

ソメイヨシノ（染井吉野、*Cerasus* × *yedoensis* (Matsum.) Masam. et Suzuki 'Somei-yoshino')

最もポピュラーなサクラの栽培品種であり、学内でも最も多いサクラです。ソメイヨシノは、これまでに紹介したエドヒガンとオオシマザクラの雑種とされ、両種の間隔的な形質を持ちます。たとえば、そのがく筒は少しつぼ状になっており、エドヒガンの形質を受け継いでいます。なお、オオシマザクラには、このつぼ状のくびれはありません。



ソメイヨシノ（2020年3月27日、3K棟近く）

その他の野生種

マメザクラ（豆桜、*Cerasus incisa* (Thunb.) Loisel. var. *incisa*)

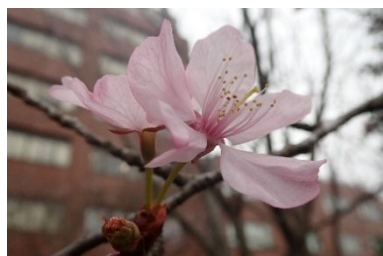
関東地方から中部地方に自生するサクラです。隣の埼玉県や東京都までは自生しますが、茨城県には自生しません。低木状で、花も葉も小さいサクラです。山の中では、子供のサクラが咲いているように見えます。南駐車場近くに植栽されています。



マメザクラ  
（2020年3月27日、南駐車場近く）

オオヤマザクラ（大山桜、*Cerasus sargentii* (Rehder) H.Ohba var. *sargentii*)

より寒い冷温帯に生育するサクラです。生物農林学系棟F棟脇にまとまって植栽されています。ヤマザクラなどに比べ赤みが強い花を咲かせます。

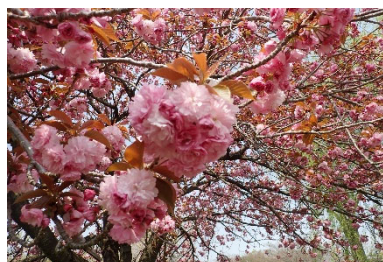


オオヤマザクラ  
（2020年3月31日、生物農林学系棟F棟近く）

サトザクラの仲間

カンザン（関山、*Cerasus Sato-zakura Group* 'Sekiyama' Koidz.)

学内の虹の広場には、サトザクラと呼ばれる品種群が数多く植栽されています。その代表の一つがカンザンです。花は遅く4月が見ごろです。八重咲きでボリューム感のある花です。



カンザン  
（2020年4月16日、虹の広場）

## サクラの仲間

ウワミズザクラ（上溝桜、*Padus grayana* (Maxim.) C.K.Schneid.）

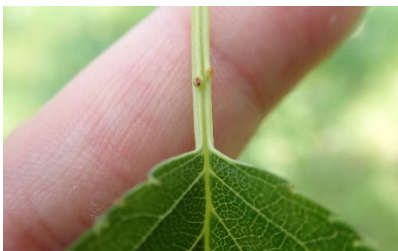
サクラの名がつきますが、分類学的には属レベルで異なります。花の一つ一つは小さいのですが、集まって咲くので（花序を作るので）、白いブラシのように見えます。花は4月中旬が見ごろです。学内に自生する樹種です。



ウワミズザクラ（2020年4月16日、虹の広場）

## サクラの葉や果実を楽しむ

サクラは花を楽しむものとされますが、葉や果実も特徴があります。サクラの葉の柄（葉柄）あるいは葉の柄に近い部分には蜜腺という小さな突起物があります。蜜腺はサクラ全体の特徴の一つです。また、果実は黒く熟しますが、未熟な黄色や赤色の果実が混ざってつくものが多く、色とりどりの細工物のようです。



オオシマザクラの蜜腺  
(2020年5月1日、虹の広場)



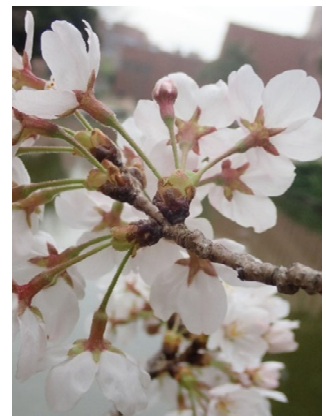
オオシマザクラ（2020年5月28日、虹の広場）

## ウメとサクラ

ウメとサクラは共にバラ科で、5枚の花弁、一本のめしべ、多数のおしべといった花の作りが共通しています。分類学的には、ウメ属とサクラ属というように異なっていて、種子の表面にウメはしわがあるのに対して、サクラはしわがない、といった明確な違いもあります。一方、開花時期もウメの方が早いのですが、サクラにも早咲きのものがあり、花期だけでは区別できません。そんなウメとサクラですが、花が咲いているときの趣が違います。ウメは花に柄がなく、枝から直接花が咲くので、花が列状について見え、枝自体も目立ちます。ところが、サクラは花に長めの柄（花柄）がついています。それらが多少なりとも垂れ下がるので、全体に“ふわっ”とした感じに見えます。



ウメ（2020年3月6日、  
保健管理センター近く）



ソメイヨシノ（2020年3月27日、3K棟近く）

### 参考文献

- 1) 勝木俊雄「フィールドベスト図鑑 日本の桜」Gakken
- 2) 大橋広好ほか（編）「日本の野生植物 第3巻」平凡社
- 3) 米倉浩司・梶田忠(2003-)「BG Plants 和名－学名インデックス」(YList), <http://ylist.info>

\*学名については、3),2),1)の順で準拠しました。

昨年、本学で予定しておりました「2020国際植物の日」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。毎年「構内植物ガイドツアー」に参加してくださる皆様に桜をはじめとする学内の植物のご案内ができず残念でした。そこでこのリーフレットの初回はサクラ編として作成いたしました。今後、学内の他の植物種の紹介もしていきたいと思っております。なお、今回の内容には、2020年6月17日に生命環境科学研究科の教育・研究トピックスの掲載内容が含まれています。